

『会計におけるDXとIT補助金の活用について』

令和4年5月16日(月)

OA推進プロジェクトリーダー
小寺 隆史

会計におけるDX

- ①取り扱う書類のペーパーレス化
- ②印鑑の電子化
- ③システムの連携（API連携）
- ④フィンテックの活用
- ⑤会計システムのクラウド統合

ペーパーレス化

- ・電子帳簿保存法の改正もあり、ペーパーレスの波は急速に訪れる。

電子帳簿保存法の電子取引における電子データ保存の義務化は2022年1月から2年間延長になったが、今のうちに電子取引から対応をすることが重要。

システム連携・フィンテック・クラウド連携

- ・単体のシステムだけで考えるのではなく、連携して取り込む。

給与⇒会計

電子保存⇒会計

金融機関取引⇒会計

レジ⇒会計

勤怠⇒会計

TKCシステムでデジタル社会に対応し、 経理業務の合理化を実現しよう！

1. 金融機関への決算書・月次試算表も「電子で提供」
する時代に
2. TKCシステムの活用による経理業務の合理化



IT補助金

新設

補助対象となる経費

■ 通常枠 (A・B類型)

補助率	1/2
補助額	30万円 ~ 450万円
補助対象	<ul style="list-style-type: none"> ITツールのソフトウェア購入費用 クラウド利用料 (最大1年分補助) 導入関連費用等

実質60万円以上の案件で利用可能!

■ デジタル化基盤導入類型

	ITツール	+	ハードウェア購入費用	
補助率	2/3 ~ 3/4		1/2	
補助額	5万円 ~ 350万円		上限: 10万円	上限: 20万円
補助対象	<ul style="list-style-type: none"> ITツールのソフトウェア購入費用 クラウド利用料 (最大2年分補助) 導入関連費用等 		<ul style="list-style-type: none"> PC タブレット プリンター スキャナー及びそれらの複合機器 	<ul style="list-style-type: none"> レジ・券売機等

実質7万円以上の案件で利用可能!

IT補助金

まず最初に行うこと⇒gBizIDの取得
行政サービスへのログインをラクにする。
GビズIDは、1つのID・パスワードで
様々な行政サービスにログインできるサービスです。

gBizID

G Biz IDには、プライム、メンバー、エントリーという3種類のアカウントがあります。

gBizIDプライム



会社代表者
または
個人事業主



書類審査
必要



使用可能な
行政サービス

gBizIDメンバー



gBizIDプライム
取得組織の
従業員



書類審査
不要



使用可能な
行政サービス

gBizIDエントリー



事業をしている
方なら
だれでも可能

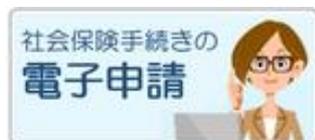


書類審査
不要



使用可能な
行政サービス

GビズIDで利用できるサービス



e-GOV

jGrants

IT導入補助金

石綿事前調査結果
報告システム

保安ネット

ミラサポplus
中小企業向け補助金・支援サイト

厚生労働省
食品衛生申請等システム

DIPS
Drone / UAS Information Platform System

経営力
向上計画

DX推進ポータル

農林水産省
共通申請サービス

+TeCOT

金融庁
電子申請・届出システム

申請書類がGビズID運用センターに到着した後、書類に不備がない場合には、原則として2週間以内に審査し作成されます。ただし、GビズID運用センターの稼働状況によっては、原則によらない場合があります。

最近問い合わせが多い補助金

- ①事業再構築補助金⇒コロナの影響を受けて、新たな取り組みをする企業を支援。
- ②ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金⇒業績の如何問わず新たにモノづくりやサービス等を採用する企業を支援。
- ③小規模事業者持続化補助金⇒販売促進等にかかる費用を補助。最近ではインボイス対応する企業に対しては新たな補助額を新設。
- ④IT補助金⇒デジタル枠の創設により、パソコン等ハードが対象に。
- ⑤事業承継・引継ぎ補助金⇒事業承継を契機として事業再編。
・事業統合に伴う費用を支援。